



『大分市佐賀関大火』 と 「空き家」問題

令和8年6月13日

制作

山陽小野田市防災士協会 専務理事

防災士 中込 誠

本日の案内役



大分県大分市佐賀関大火

令和7年11月18日午後17時30分頃発生

令和8年6月18日で発生から7ヶ月が経過します

どうして**大火**になったのか！

それには・・・延焼が拡大した裏に

「**空き家**」と「**雨戸**」問題がありました！



今日のおはなし

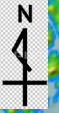


防災研修会

- ・ 佐賀関について
- ・ 佐賀関田中連合区住宅設置概況
- ・ 発災から鎮圧までの消火活動
- ・ 「燃えさし」の飛散とRc等建物への延焼
- ・ 住民の避難
- ・ 「空き家」と火災リスク
- ・ まとめ

今日はこれらについてお話します





山口県

宇部市

佐賀関について

福岡県

国東半島

大分県

佐田岬半島

愛媛県

別府湾

大分市

佐賀関

豊後水道



佐賀関田中連合区



関先

福水

佐賀関半島

大黒

小黒

遠見山
172m

大火災場所
佐賀関田中連合区

佐賀関港

佐賀関消防署

佐賀関市民センター

上浦

西町

佐賀関漁港

幸の浦

蔦島

蔦島

300 m



柳井・岩国

高島

196m

遠見山 172m

海拔・59m

海

海拔・56m

田中運動公園

臨時休業

海拔・8m

椎根津彦神社

火元・9m

海拔・3~4m

佐賀関神上地区

佐賀関田中地区

佐賀関東地区

東林庵・20m

佐賀関漁港

佐賀関田中連合区全景



佐賀関の歴史と地区の特性

焼失した佐賀関 南側より見る



- ☞ 昔は瀬戸内海を航行する**船の取り締まる関司**（せきのつかさ）がおかれ、佐賀関の名前の由来となっています。
- ☞ 佐賀関で水揚げされる**関アジ・関サバ**は水産品の高級ブランドとして知られています。
- ☞ 佐賀関は歴史ある**風待ち漁港**として発展してきた経緯があり、**限られた土地に木造建物が密集して、昔からの漁村集落**です。
- ☞ 火災リスクの「ハード要因」としては、「**空き家**」が多く建物間の**距離が狭く、又、道路の幅も狭く**なっています。
- ☞ 火災リスクの「ソフト要因」としては、近年、**人口減少と高齢化**が急速に進み増え続けて、**高齢化率が68%**をしめます。



佐賀関 田中連合区 地区割 世帯数 延焼エリア



佐賀関田中連合区で被災した184世帯の内・86世帯が残り生活をしています。
被災した人は市内の市営住宅(11地区・37戸)で生活しています。



佐賀関 田中連合区 被害状況



1. 発災と鎮火迄の経緯

(1) 覚知 令和7年11月18日(火曜日) 午後17時45分 (消防署受付時間・17時頃発災)

(2) 鎮圧 半島部分 令和7年11月20日(木曜日) 午前11時 (田中地区)

蔦島 令和7年11月28日(金曜日) 午後1時30分

(3) 鎮火 半島部分 令和7年11月28日(金曜日) 午後1時30分(田中地区)

蔦島 令和7年12月 4日(木曜日) 午後2時

2. 出火場所

大分市佐賀関田中連合区

3. 被災家屋数 (被災世帯 約130世帯)

196棟 (住家 96棟(49%) 空き家 75棟(38%)その他 25棟(12%))

4. 焼失範囲

約63,938㎡ うち住宅エリア 23,321㎡

※焼損床面積は 12,563㎡

5. 死傷者

死亡1人(76歳男性)、負傷者1人(50代女性転倒)



👉 最大の要因は強風

被害がここまで広がった最大の要因は「強風」だとされています。
北西からの強い風が吹き、炎や火の粉が一気に広い範囲へ運ばれました。

👉 消火活動が難しかった環境

消防車が入れない路地が多く、そのため中に踏み込んでの消火は、隊員の生命を著しく危険にさらします。従って、取り巻き放水となりました。

👉 「飛び火」そして「空き家」が密集した町並み

狭い土地に木造住宅の「空き家」が密集し、この「空き家」が半数あり建築年数も古く、屋根や壁等が壊れており、これより火の粉が入り、延焼に拍車をかけて隣家へすぐ燃え移り連続的に短時間で延焼していきました。



1. 気候は冬型の気圧配置

- ☞ 日本付近は冬型の気圧配置となっており、九州付近では北寄りの風が強まっていた。

2. 強風注意報の発令

- ☞ 大分県内では沿岸各地に強風注意報が発表されていて午後5時頃に風速5~8メートルの風が吹いていた。
- ☞ 佐賀関に北西の風が吹き付けると「ビル風」のように局地的に風が瞬間に風速 13m/sの風と強まります
これが火災拡大の原因とされています。

3. 乾燥状況

11月18日迄の過去30日間にまとまった雨は無く、アメダスでの30日間合計雨量の観測は38.5mm(平年比37%)と平年に比べ少く乾燥状況が続いていた。



佐賀関火災発生位置と当時の風向き(天気曇り)

豊後平瀬灯標

北西強風
5~8m/s



国道九四フェリー 佐賀関
港フェリーターミナルビル

早吸日女神社

火元

波堤灯台

飛び火 発火時間は不明
1.5Km 蔦島

あまべの郷 関
あじ関さば館

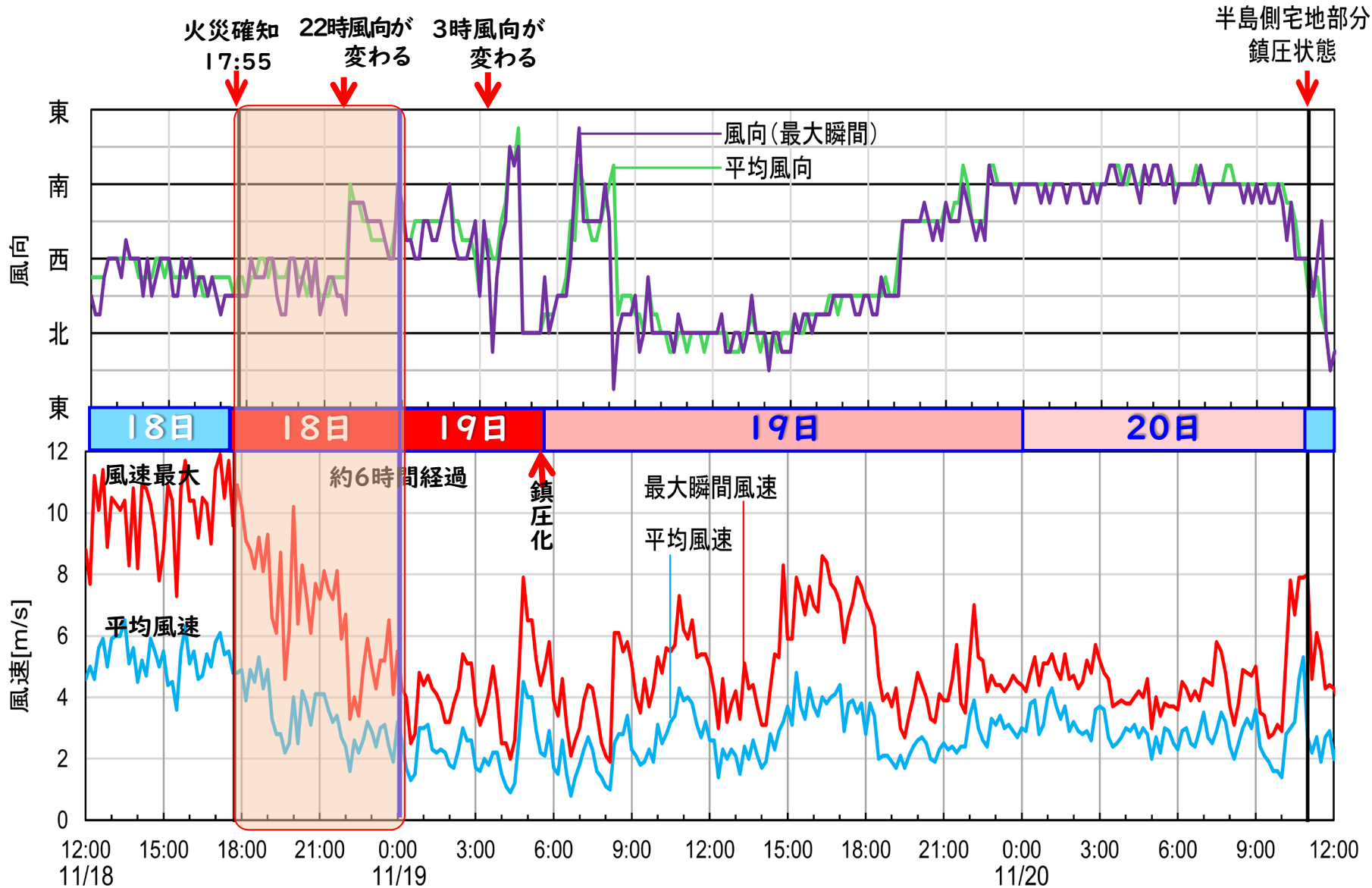
火災発生中に南西風が変わる
(20時頃)

蔦島灯浮標

白木



11月18日～11月20日間の佐賀関 風向と風速



※ 佐賀関田中地区より大分測候所まで24km離れている

出典・大分測候所・加筆



佐賀関被災建物構造別表示



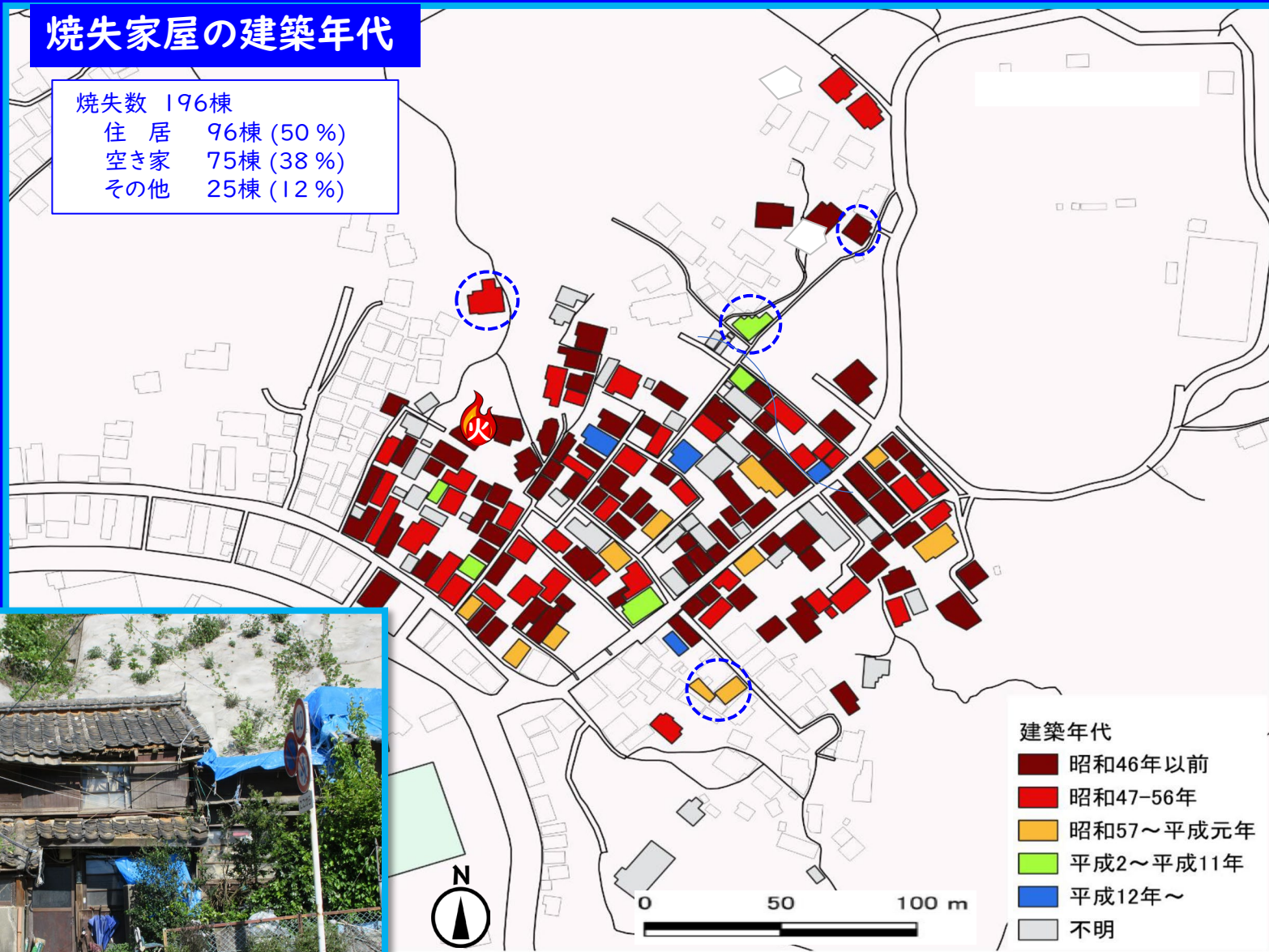
建物構造



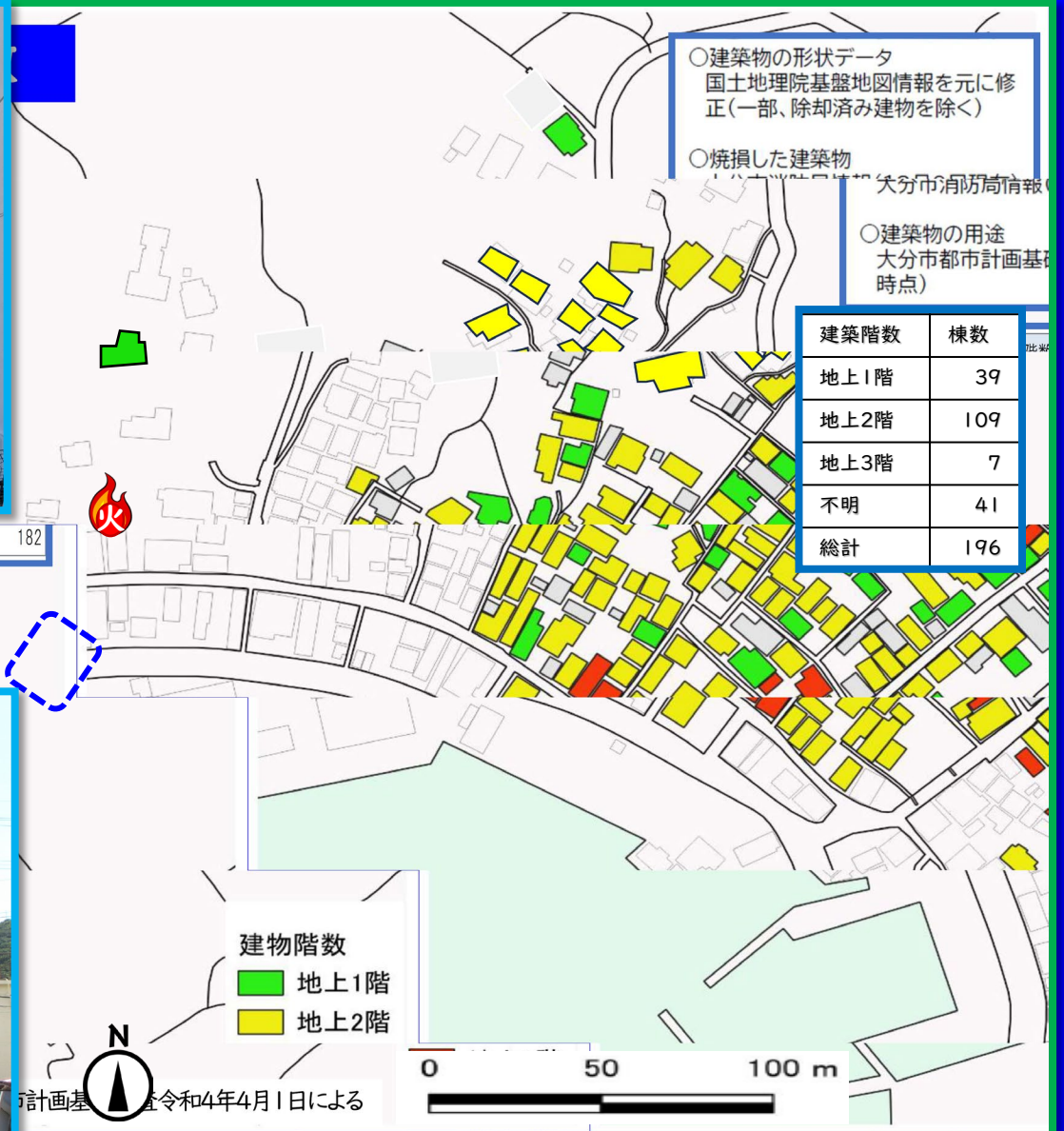
佐賀関被災建屋建築年代表示

焼失家屋の建築年代

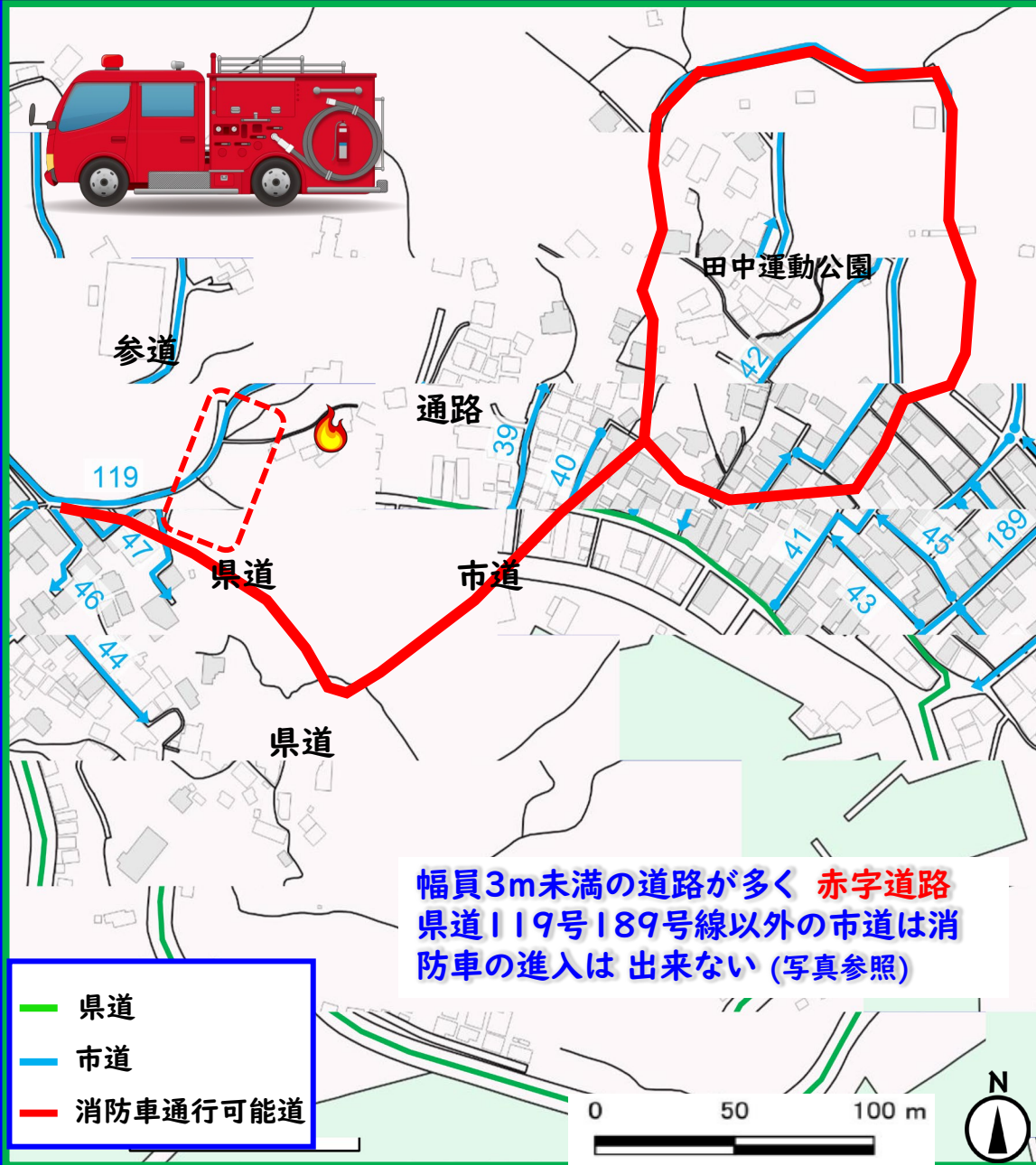
焼失数	196棟
住居	96棟 (50%)
空き家	75棟 (38%)
その他	25棟 (12%)



佐賀関被災建物階数別表示



佐賀関被災地区道路中



路線番号	延長(m)	最小・最大幅員(m)
39	46.90	1.80 ~ 4.10
40	47.00	1.20 ~ 1.60
41	100.90	1.10 ~ 2.00
42	149.20	0.90 ~ 1.70
43	55.10	1.50 ~ 1.90
44	62.90	1.20 ~ 2.70
45	50.00	2.00 ~ 2.60
46	48.00	1.40 ~ 3.40
47	100.20	1.60 ~ 4.10
119	549.40	2.40 ~ 7.80
189	162.10	3.20 ~ 7.20





防災研修会

発災から鎮圧までの延焼状況

火災の広がり状況周辺状況を時系列で報告



17時55分頃 3棟延焼中

火元・火元北東側一南側
3棟延焼中

延焼範囲

[佐賀関消防隊12号] 南側県道上に部署
単独ホース延長⇒火元

西側から散水

[佐賀関消防隊16号] 消火栓部署⇒単独
ホース延長
火元東側から放水

佐賀関支所 消防車2台稼働

第一通報は約100m東の住民からであった、通報は7件あった

佐賀関緊急消防隊現着
火元箇所の変更情報

テニスコート

赤丸は消火栓を示す・全て未使用でした

田中運動公園

①放水開始

3棟延焼中

被災最西側家屋

「空き家」

12.8m

火元

9.3m

「空き家」

5.4m



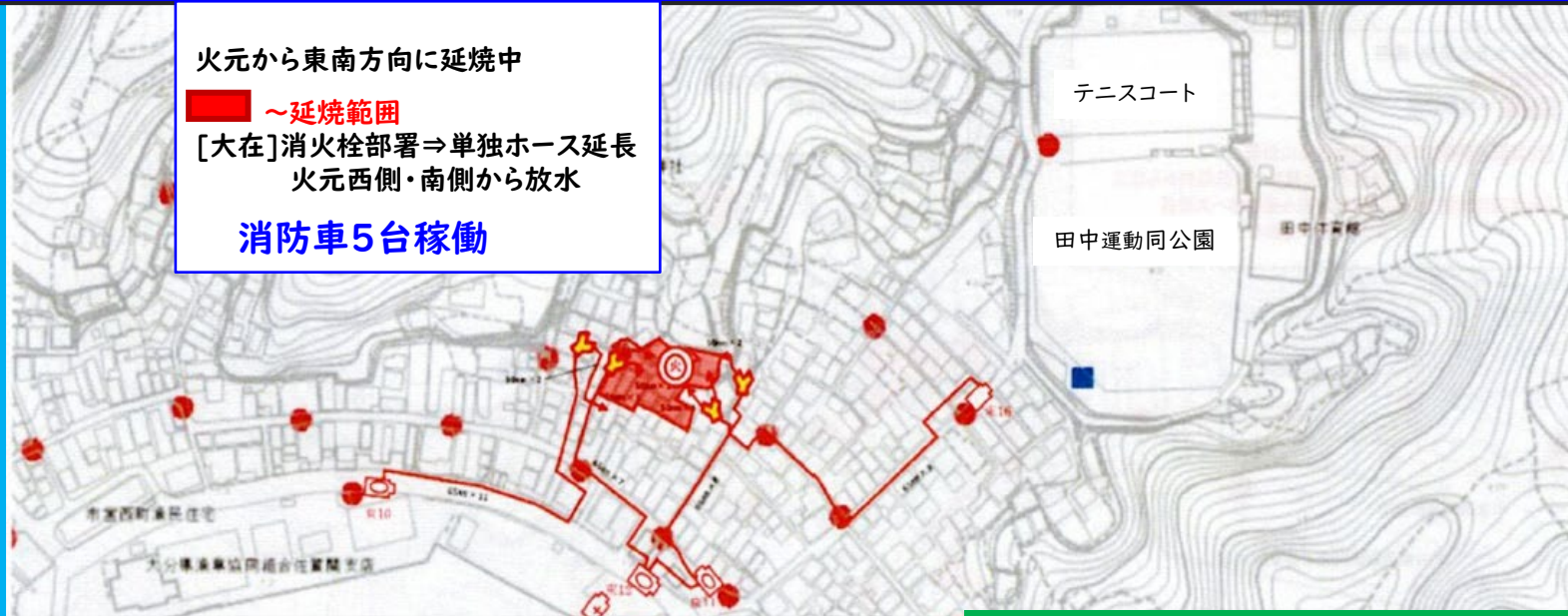
18時10分頃 延焼中 (消火開始から15分経過)

火元から東南方向に延焼中

■ ~延焼範囲

[大在]消火栓部署⇒単独ホース延長
火元西側・南側から放水

消防車5台稼働





発災元 近辺10軒延焼中 午後6時10分頃
南側に延焼



11月18日 18時15分過ぎ 飛び火発生 (発災から20分経過)

火元から南東方向に**延焼中**
 火元北側法面に**飛び火①**⇒山林に延焼拡大さらに北側山林に**飛び火②**
 同時に火元から散水せんで挟んで東側住宅に**飛び火③**
 ⇒佐賀県消防隊(16号)のホースラインが焼ける
 ⇒佐賀県消防隊・坂の市は南側へ退避






 ~ 延焼範囲
 ~ 飛び火①②③

[東指揮]現場指揮本部設置⇒現場指揮
 [東消防]大在の分水器からホース延長
 火元北側から散水、消火①②対応
 [東救助]坂ノ市分水器からホース延長
 火元北東側へ向う
消防車9台稼働

延焼拡大により
 現場指揮本部を2回移動



移動小隊長ウェアラブルカメラの映像から読み取れる風向

- 18時20分頃 南西の風 
- 18時38分頃 北西の風 
- 18時43分頃 北の風 
- 18時45分頃 南西の風 
- 18時49分頃 南西の風 

風向が常時変わる
 風向の監視用として
 ウェアラブルカメラの
 風向を本部で記



東林庵



18時50分頃 (消火開始から55分経過)

火災から南東側にさらに延焼拡大
延焼範囲内のホース焼ける
東教授一次避難

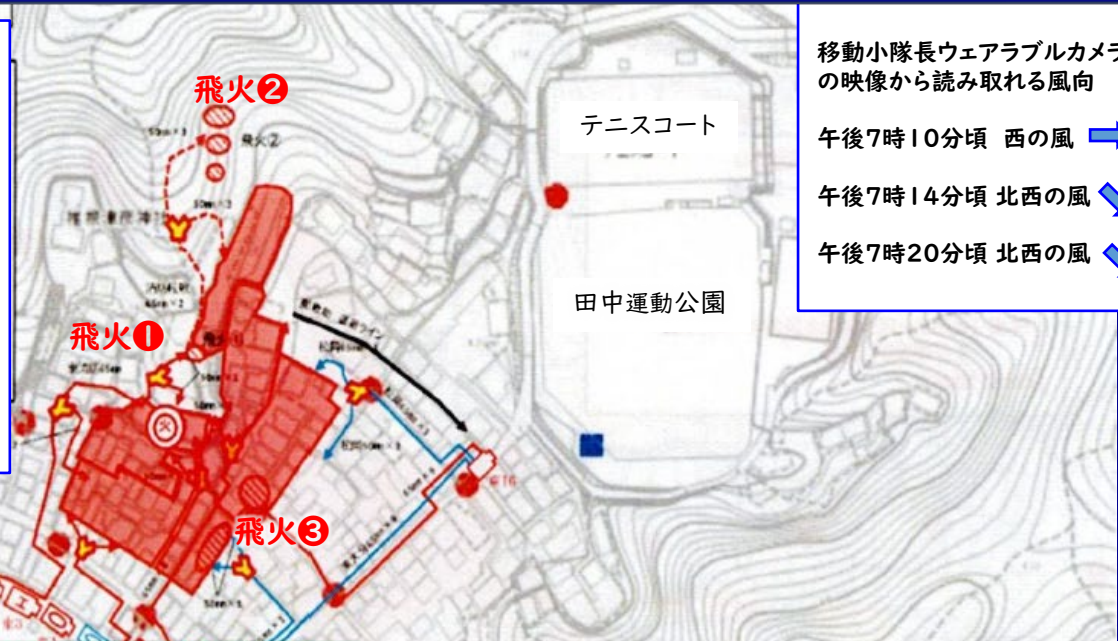
田中グランド北西林に飛火④

■→延焼範囲

■→発災①②③④

[大南]漁港北側の海水吸水
単独ホース延長し火元南西側から放水
[中央消防]乗捨て⇒東16号からホース延長
火元東側から放水

消防車9台稼働

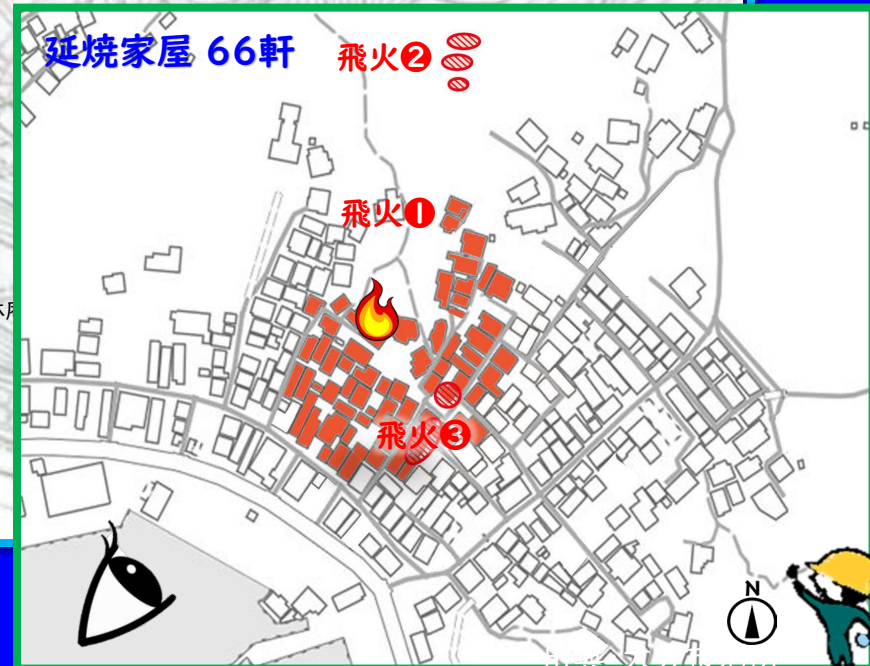


移動小隊長ウェアラブルカメラの映像から読み取れる風向

午後7時10分頃 西の風 →

午後7時14分頃 北西の風 ↙

午後7時20分頃 北西の風 ↙



19時10分頃の状況 (消火開始から1時間15分経過)

火災旋風発生

南西の風

海側

火元より南側への延焼部

飛火③による延焼部

山側



中通り

東林庵側より火元方面を見る

火災による火災旋風発生 強い海側よりの風に変わる



翌朝 焼失後の状況

木造建屋

Rc建屋

火元



隣接RC建屋の窓ガラス

割れなかった窓ガラス

割れた窓ガラス



19時35分 飛火により延焼拡大 (消火開始から1時間40分経過)

火災から南東側にさらに延焼拡大
⇒松岡一次避難

田中グランド北西林に飛火④

■ ~延焼範囲

■ ~発災①②③④

[大南] 漁港北側の海水吸水
単独ホース延長し火元南
西側から放水
[中央消防] 乗捨て⇒東16号からホース
延長火元東側から放水

消防車9台稼働

飛火⑤ 火災発生

飛火⑤



移動小隊長ウェアラブルカメラ
の映像から読み取れる風向

19時43分頃 南西の風



「飛び火」により田中運動場前民家に飛び火

飛火⑤

火元



19時27分頃 東林庵から北側を撮影

延焼家屋 86軒

飛火⑤



佐賀関の地形と「飛火⑥」火災発生状況



焼失前



飛び火⑤により延焼民家 午後 7時35分頃に着火

焼失後・現状



高台の焼失民家
雨戸は有った 閉め忘れ

21時30分頃 (消火開始から2時間35分経過)

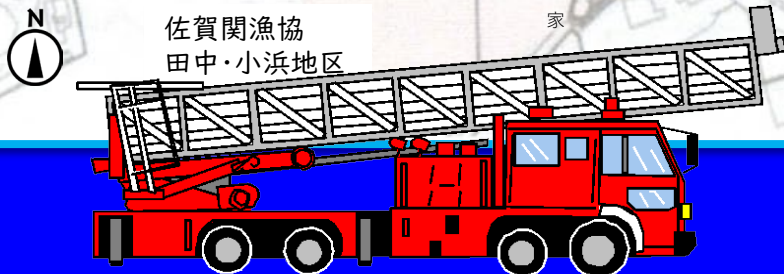
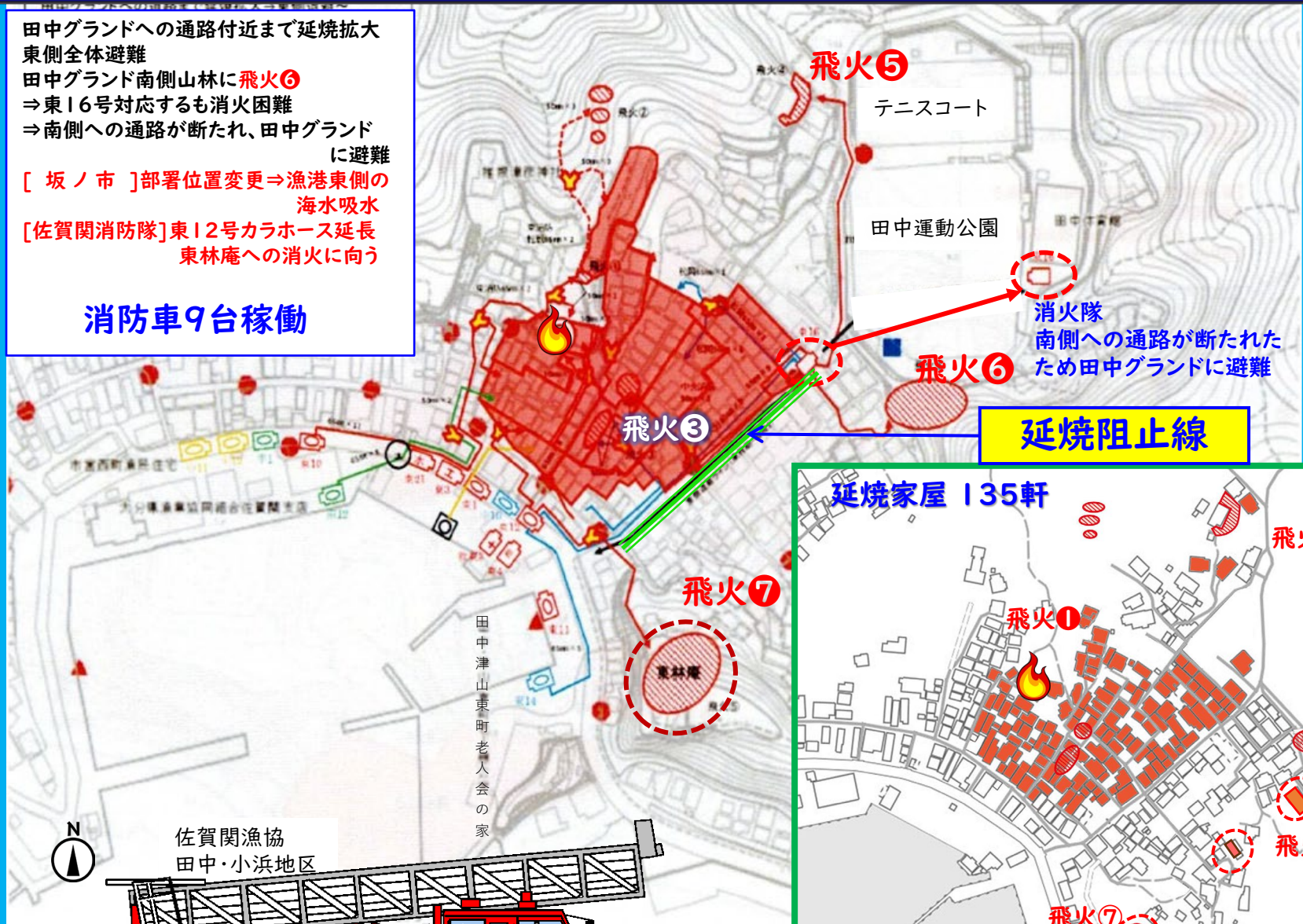
田中グランドへの通路付近まで延焼拡大
東側全体避難

田中グランド南側山林に**飛火⑥**
⇒東16号対応するも消火困難
⇒南側への通路が断たれ、田中グランド
に避難

[坂ノ市] 部署位置変更⇒漁港東側の
海水吸水

[佐賀関消防隊] 東12号カラホース延長
東林庵への消火に向う

消防車9台稼働



佐賀関漁協
田中・小浜地区

田中津山東町老人会の家



強風により東林庵に「飛び火」

北西の風により火災発生激しく燃えさかる東林庵



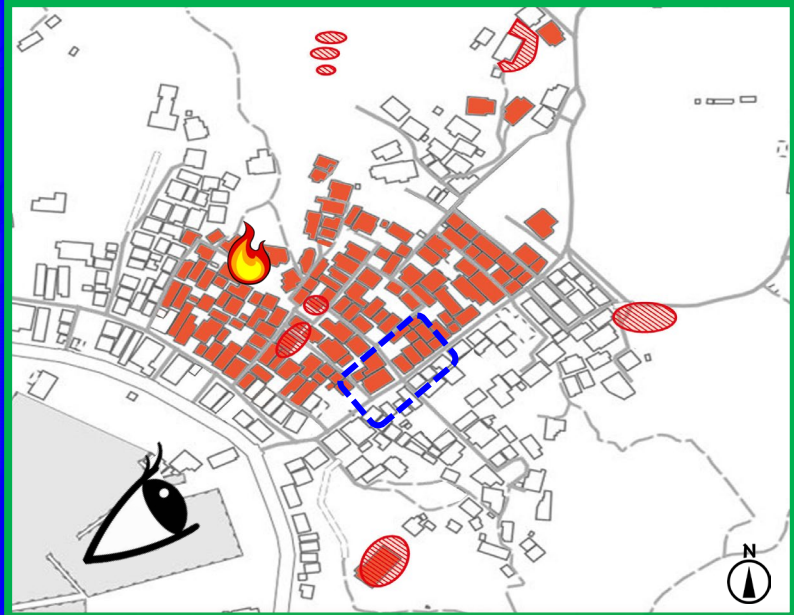
18日20時10分頃





20時10分頃

延焼中



県道田中道路入口付近の延焼状況

進む延焼

20時頃
風向は南に変わる



20時20分頃

出典・大分市消防



22時00分頃延焼状況 (消火開始から3時間5分経過)

発災⑥から東住宅へ延焼拡大
東林庵から南東側の山林に自生する
葦に飛火⑦

広範囲に延焼拡大
~延焼範囲
~飛火①②③④⑤⑥⑦

[西大分]中11号で技工北側の海水散水
[消防隊]各所で延焼防止、残火処理
[消防団] //

消防車9台稼働(12台)



※ 午後10時には延焼した住居196軒と
山火事部 全てに火の手がまわった

佐賀関漁協
田中・小浜地区



23時30分頃 火点南側建物から東側を撮影
(消火開始から5時間35分経過)



11月19日0時09分 東林庵北側墓地から北側を見る

雨戸なし

延焼家屋はすべてこの時間に燃え尽きている
(消火開始から5時間14分経過)



延焼状況

- 全焼: 崩壊、骨組みのみ残る
- 全焼: 壁の一部が残る
- 被害: 軽微
- 被害なし

被災家屋 = 196軒

延焼を免れた地区

一部延焼を免れた地区

延焼を免れた地区

延焼した地区

飛び火で延焼 東林庵

山火事

山火事

飛火④

飛火②

飛火⑤

飛び火で延焼

飛火①

市道田中線

一番の飛び火延焼

延焼を免れた地区

出火元

飛火③

飛火⑥

県管理道路

一時避難場所

県道

飛び火で延焼

飛火⑦

180m

飛火⑦

190m

190m

140m

60m

75m



焼損現場状況

(大分市消防本部ドローン撮影)



雨戸無し
飛び火で延焼

田中運動場

雨戸のおかげ
延焼を免れた地区

雨戸無し
飛び火で延焼？

雨戸無し
飛び火で延焼

延焼地区
田中2区

雨戸無し

出火元

延焼を免れた地区
田中3区
RC建屋のおかげ

飛び火で延焼した
東林庵

延焼を免れた
神上地区

延焼を免れた地区
田中1区
RC建屋のおかげ

消防団車庫

公民館

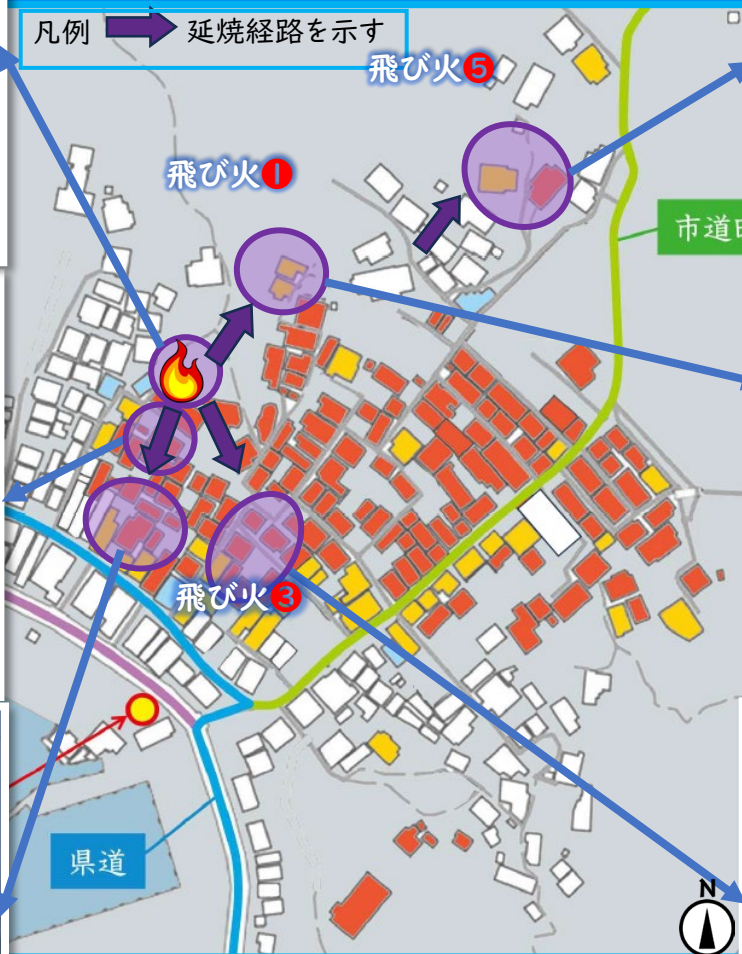


延焼の状況 3月28日説明資料に基づき現場精査



初期に離れた場所に飛び火が発生
初期の飛び火①③⑦はその場所
だけに留まった

凡例 → 延焼経路を示す



発災初期は火元に隣接する
南側に延焼



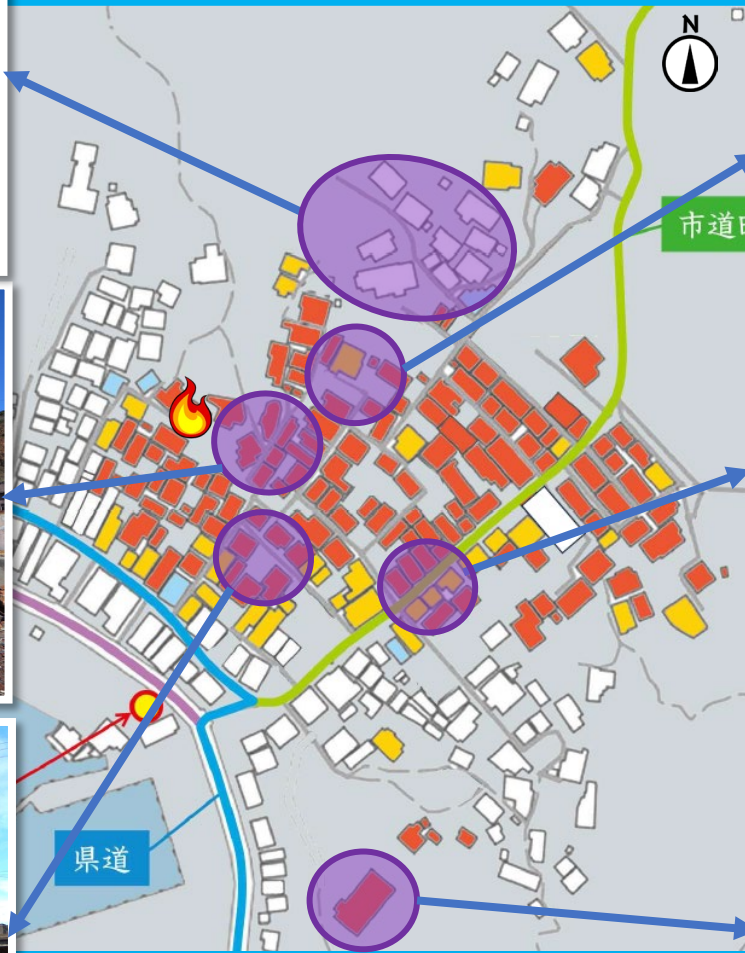
延焼の状況 3月28日説明資料に基づき現場精査



北側の延焼を免れた地区



北側の延焼を免れた地区の家には窓に雨戸が装着している。



火元より北東方向の情況

火元屋敷 下部 付近



延焼を免れた住宅



火元より南東方向の情況

木造建物は跡形も無い



東林庵焼け跡



木造建屋は跡形もなく焼却
外観が残るはRC・CP建物のみ



「焼け止まり」した場所と事象

消火活動と強風等により



空地・耐火構造・雨戸等により



消火活動とRC構造物・強風
道路間隔等により



RC構造物・強風・道路間隔
雨戸と防火外装・消火活動等により



LPGボンベの被災状況

各家庭の燃料は全てLPGガスを使用していた

爆発を免れたLPGボンベ

☞ 避難時に避難者は電源の遮断と

LPGガスボンベの元栓は閉めて避難した・地元談

☞ 今回の火災によるLPGガスボンベの爆発は

ごくわずかで有った(住家96棟)・・・大分消防局談

撮影・令和8年1月5日

撮影・令和8年2月17日





「燃えさし」の飛散とRC等建物への延焼

延焼拡大の主犯は「空き家」共犯は「飛び火」？

延焼を阻止したのは「雨戸」！



「燃えさし」⇒「燃え殻」の飛散状況調査

焼失区域外の周辺に落下している
「燃え殻」の確認と調査結果

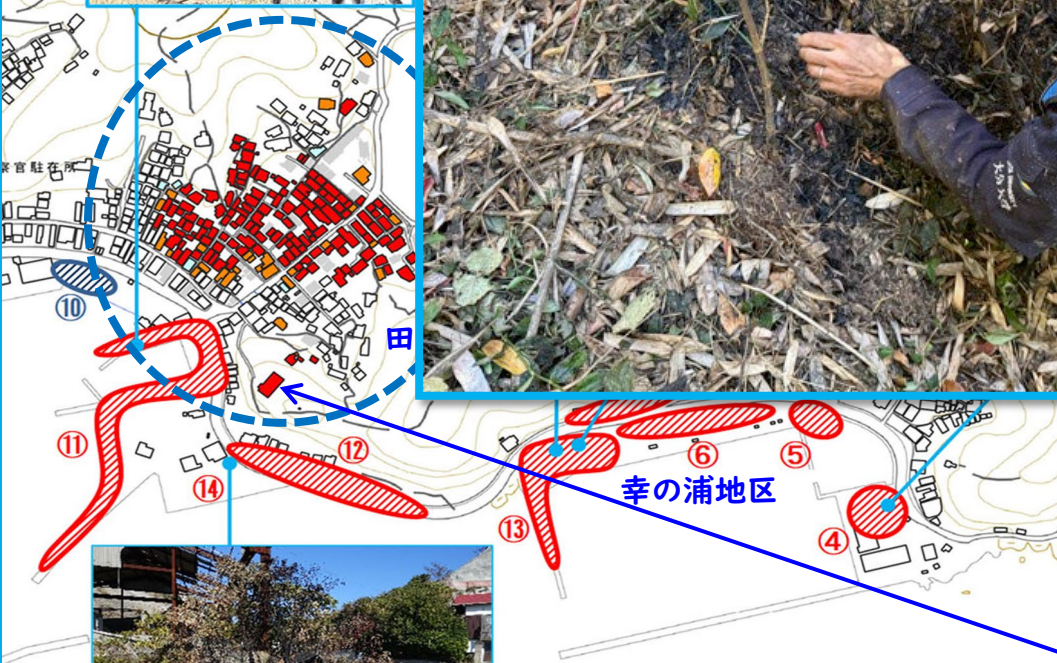
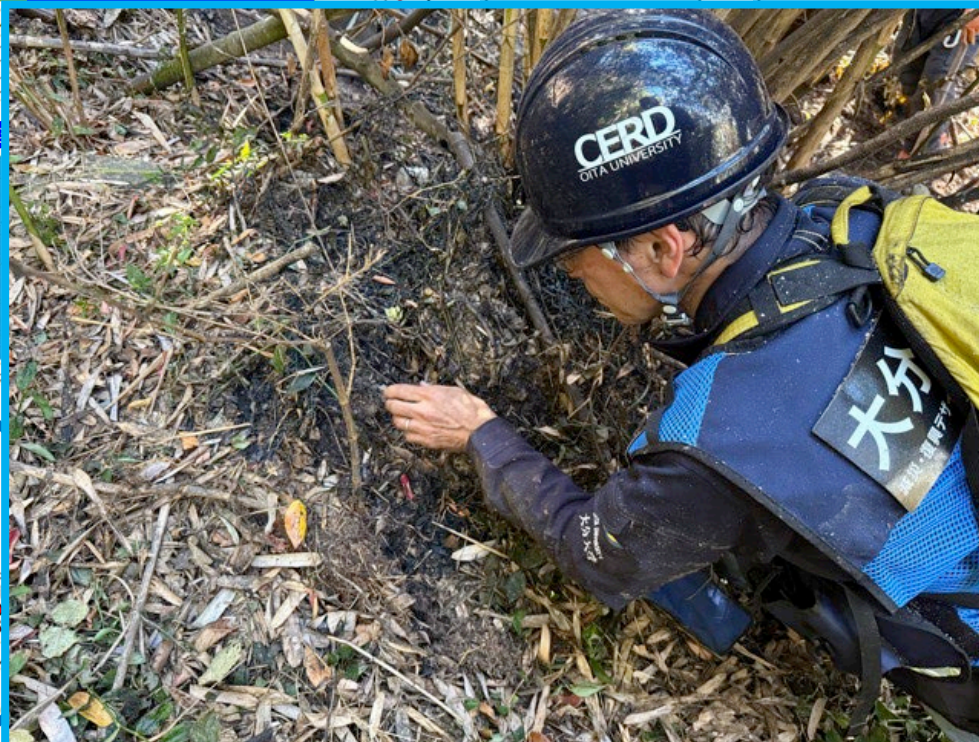
大字佐賀

	2025/11/20	2025/11/22
①	火の粉なし	火の粉なし
⑩	火の粉なし	火の粉なし

舞の坪地区

大黒地区

小黒地区



東林庵近傍で発見の「燃え殻」

0 100 200 300 m

建物形状: 基盤地図情報を元に修正、背景画像: 地理院タイル



防草シートに見られた・「燃えさし」のすごさ



建屋撤去後の空き地の防草シートに見られた火の粉により開いたと見られる穴、1㎡当たり約75個の5mm以上の穴が見られます、飛び火の危険性が高かったことがわかる (大分市消防談)



令和7年12月撮影



令和8年6月撮影
追跡調査の結果

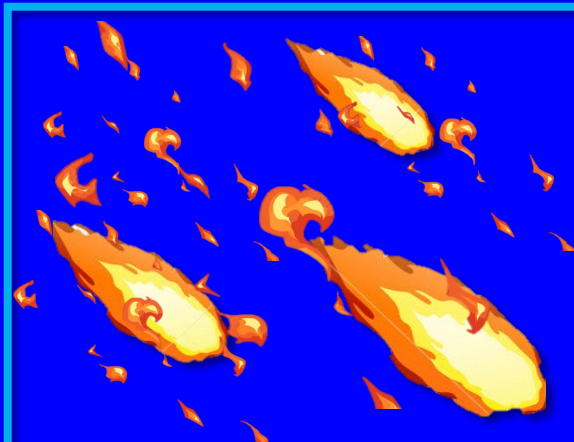
令和8年6月10日撮影



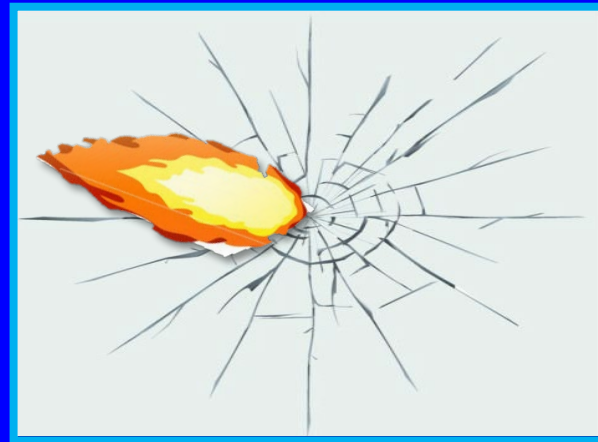
RC等建屋内の「燃えさし」による火災発生メカニズム



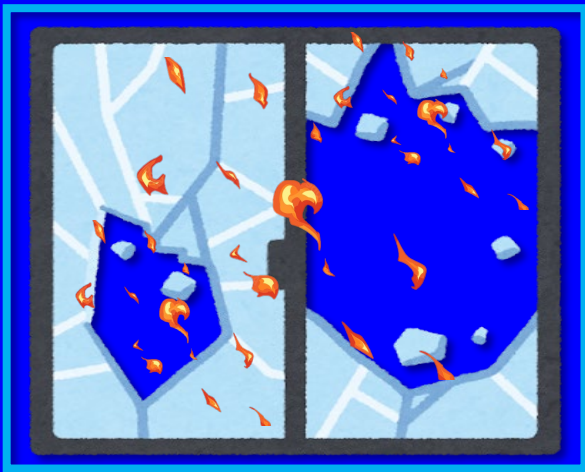
強い風により



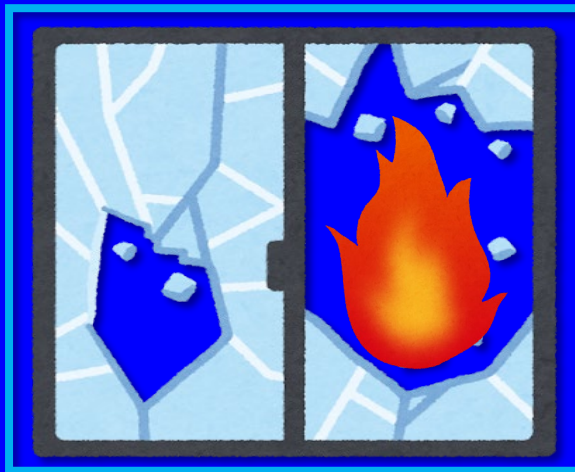
火の粉・燃えさしの飛散



燃えさしが窓ガラスに
衝突しガラスが割れる



割れた窓より飛散している
火の粉が部屋に侵入する



家屋内の発火物に火の粉
がついて火災が発生



CP建屋の室内全体に
火炎が広がる



「燃えさし」で延焼をした家と延焼を免れた家



① 延焼を免れた家・雨戸あり



② 延焼した家・雨戸無し



③ 延焼を免れた家・雨戸あり



④ 延焼した家・雨戸無し
延焼を免れた家・雨戸あり



⑤ 延焼を免れた家・雨戸あり
延焼した家・雨戸無し



飛び火⑦により焼失した東林庵

焼失前の住居側



焼失前の本堂側



大きなガラス戸 (雨戸なし)
燃えさしが衝突してガラスを破損し
火の粉が進入し焼失したようです



雨戸なしで延焼した東林庵



「燃えさし」の進入 飛び火①により焼失した家屋



雨戸なし・延焼した家



「燃えさし」の進入 飛び火⑤により焼失した家屋

焼失を免れた地区

飛び火⑤で焼失

雨戸なし・延焼した家

雨戸なし 飛び火⑤で焼失家

▽ 4.2m

令和8年1月5日 撮影



「燃えさし」の進入 飛び火⑥により焼失した家屋

飛び火⑥で焼失



雨戸なし・延焼した家



令和8年1月5日 撮影



「燃えさし」の進入で延焼を免れた地区の 唯一焼失した家屋



雨戸なし・延焼した家



「空き家」



この地区はほとんどの家に雨戸有り



明暗を分けた家屋 (木造建築だか雨戸にて延焼を免れた民家)



椎根津彦神社

火元

八潮工業
臨時休業

明暗を分けた家屋

わたなべ装飾

佐賀関循環線

市道

市道

佐賀関墓地

635

消防団車庫

田中公民館

消防団 第7方面
関下浦分団 第4部

県道

佐賀関循環線

東林庵

東林庵
臨時休業

Google Maps



明暗を分けた家屋 (プラスチック製のヒサシで難を逃れた民家)



「燃え殻」

ビニール製日除け幕

令和8年3月5日 撮影



「燃え殻」が残る屋根と破損した瓦

「燃え殻」

「燃え殻」で破損した瓦

瓦の下にある「おき土」
「おき土」により瓦は割れず



延焼をまぬがれた地区についての考察



1. 延焼を免れた地区
建屋前方の建屋が除却され空地が連担しており、比較的広い空間があったことも、被害抑制に寄与したと考えられる。
2. 雨戸を地区全ての建屋が備えていた。
3. 避難時に全ての民家で雨戸を閉めて避難した。



雨戸に守られた



延焼を免れた地区 全ての建屋に雨戸あり





防災研修会

住民の避難



当日住民の避難状況



田中連合区は人口268人 65歳以上の高齢者は188人70%以上を占める



住民の避難行動状況



○ 火災覚知後 開設

- ☞ 午後 5:50頃～6:00頃には区長が田中公民館を避難所として開設。
- ☞ 各地区において、**数軒単位の小さな班**をはじめとした**住民間の声掛け**が**主体的**に実施され、田中公民館への避難誘導等を行なった。
- ☞ 並行して消防団や警察等による避難の呼びかけや避難誘導も実施。
- ☞ 戸別訪問の際は、**高齢者が多いため音で知らせるために扉をドンドンと叩き、大声で避難を呼びかけた。**

○ 午後 7:30頃に**佐賀関公民館を避難所**として開設

- ☞ 田中公民館から佐賀関公民館へ、消防団や警察による誘導により移動。

○ 午後 7:30～午後8:00頃から**区長が安否確認**

- ☞ 区長が安否確認の電話連絡等を実施。

○ 午後 8:00～8:30頃から、(田中公民館⇒佐賀関公民館へ移動)

- ☞ 避難は原則徒歩で行う事を指導。
- ☞ デーサービス事業者「大翔会」による、「車イス」高齢者を車にて搬送。

○ 午後10:00時点で、146名(99世帯)が佐賀関公民館に避難。



佐賀関大規模火災における住民避難の動き（時系列集計）



時刻	田中第1区～3区・神山地区,東町地区（区長・民生委員・防災士・一班市民等）			消防本部・消防団・警察
	避難所関係	避難・誘導	戸別訪問・安否確認	
17:43頃				火災確知
17:50頃		火災確知(各区長等)		
18:00頃				
18:30頃				
19:00頃				
19:30頃				
20:00頃				
20:30頃				
21:00頃				
21:30頃				
22:00頃				
22:30頃				
23:00頃				
24:00頃				

※ | 終了時刻はたしかではありません



田中地区住民の佐賀関センターへの避難経路



指定避難所
佐賀関市民センター

約1,000m
避難は原則として歩行避難要支援者等は
消防・民間施設等が車で避難援護



大火災現場
田中地区

田中公民館
一時避難場所



どうして大火災で高齢者全員が無事に避難できたか？😊

👉 佐賀関田中地区の避難訓練

地震や津波を想定した避難訓練が、年に1回実施されていました。

👉 避難訓練により

・人的被害なし

避難訓練のおかげで火災による人的被害は出火元の1名だけでした。

・声かけ助け合いの行動

・月に1度声かけ訓練を実施していた

・火災発生後、近所の人同士で声を掛け合い、支え合って避難した。

👉 高齢者の避難

・佐賀関地区は65歳以上の住民が7割を占める高齢化地域。

・自力で避難することが難しい方が多い状況（車椅子利用者30名）

・車椅子利用の要支援者は介護施設の車にて避難所に移動した。



田中地区の「土砂災害ハザードマップ」

大分市

「校区别マップ」

令和4年度

土砂災害ハザードマップ

05-381-I-2178

あなたへの避難情報の伝達について!

避難情報は市役所から発令され、テレビ(データ放送)・ラジオ・防災メール等により伝達されます。

「内閣府の規定により令和元年度から避難所の表示等を変更しました」

この「土砂災害ハザードマップ」を基に避難訓練を毎年実施

指定緊急避難場所
(指定避難所)

佐賀関公民館

一時避難地

田中公民館

指定緊急避難場所と指定避難所の違い

指定緊急避難場所とは、災害発生時に緊急的に避難する場所です。

- ・警戒レベル3(高齢者等避難)以上の避難情報を発令した際に、市が開放します
- ・小中学校のグラウンドや体育館、校舎の2階以上などを指定しています

指定避難所

- ・自宅が被災した人が次の住まいを確保するまでの間、一時的に生活する場所です
- ・支援物資や情報等が集まります

一時避難地とは、地域が選定する集会所や公園等の、一時的に避難する場所です。

項目	記号
土砂災害警戒区域(土石流)	
土砂災害警戒区域(急傾斜)	
土砂災害警戒区域(地すべり)	
土砂災害特別警戒区域	
指定緊急避難場所(指定避難所)	
地域が選定する一時避難地	
避難方向	
危険が想定される区域	
注意事項	

問い合わせ先

大分市役所

河川・みたと振興課、防災危機管理課
電話：534-6111(代表)

大分県砂防課

電話：536-1111(代表)
大分県大分土木事務所
電話：558-2141(代表)

この地図は、大分県森林資源情報データ(ダウンロード)から作成したものである。(測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2KU53)

- 黄色でぬりつぶされた範囲(土砂災害警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。
- 赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域」です。
- ・土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となりますので、注意してください。
- ・また、土砂災害警戒区域以外の箇所でも土砂災害の発生する可能性がありますので、自分の住んでいる家の周辺の斜面や渓流、避難場所などをよく確認しましょう。





「空き家」と火災リスク



なぜ空き家があると延焼リスクが高まるのか

空き家が延焼リスクを高める理由は、「建物が古いから」だけではありません。

今回の佐賀関の大火では主な要因は以下の二点です。

1. 異変を察知する人がいない

人が住んでいれば気づける煙や焦げ臭さも、無人の家では誰も感知できません。

2. 管理者不在による「燃えやすい状態」

管理者不在により破損した開口部の管理等がなく、この開口部より火の粉が簡単に入り、火災が延焼しました。

今回の佐賀関大火では、2軒に1軒が「空き家」でした。

建築年数も古く、物置や倉庫を入れますと196棟のうち100棟が「空き家」でした。

今回の佐賀関の大火では、近隣住民が気づいた時点では、強風によりすでに延焼が広がっていました。

- 👉 令和7年12月上旬大分市で「空き家」火災あり4軒が焼けました、原因は通電火災によるものでした。



6月10日現在「空き家」状況

- 全焼: 壁の一部が残る
- 被害: 軽微
- 被害なし

「空き家」= 28軒

神上地区 8軒

田中2区 3軒

田中1区 0軒

田中3区 17軒

県管理道路

一時避難場所

県道

山火事

山火事

市道田中線

出火元

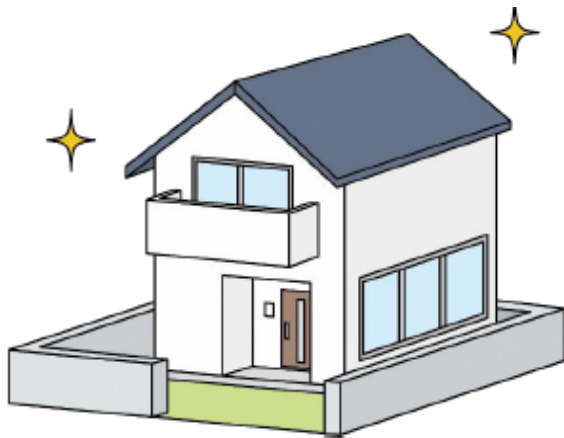
山火事

- ※大分市消防資料 3月26日資料
- ※田中連合区資料 6月10日資料
- ※0m・火元よりの直線距離を示す
- ※▲ 現存の「空き家」を示す

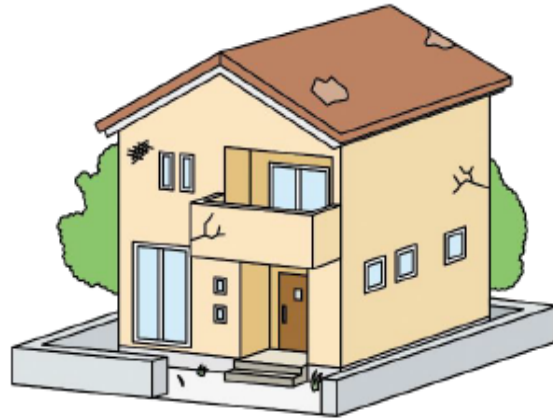


「空き家」の定義

[管理された空き家]



[管理不完全空き家等]



[特定空き家等]



- ・管理された「空き家」
☞ すぐにでも使用できる状態

- ・経年劣化相当の「空き家」
☞ 建物などに若干の傷みはあるものの、周辺に支障がない状態

- ・著しく状態の悪い「空き家」
☞ 建物などに著しい傷みがあり、周辺に支障がある状態

「特定空家」



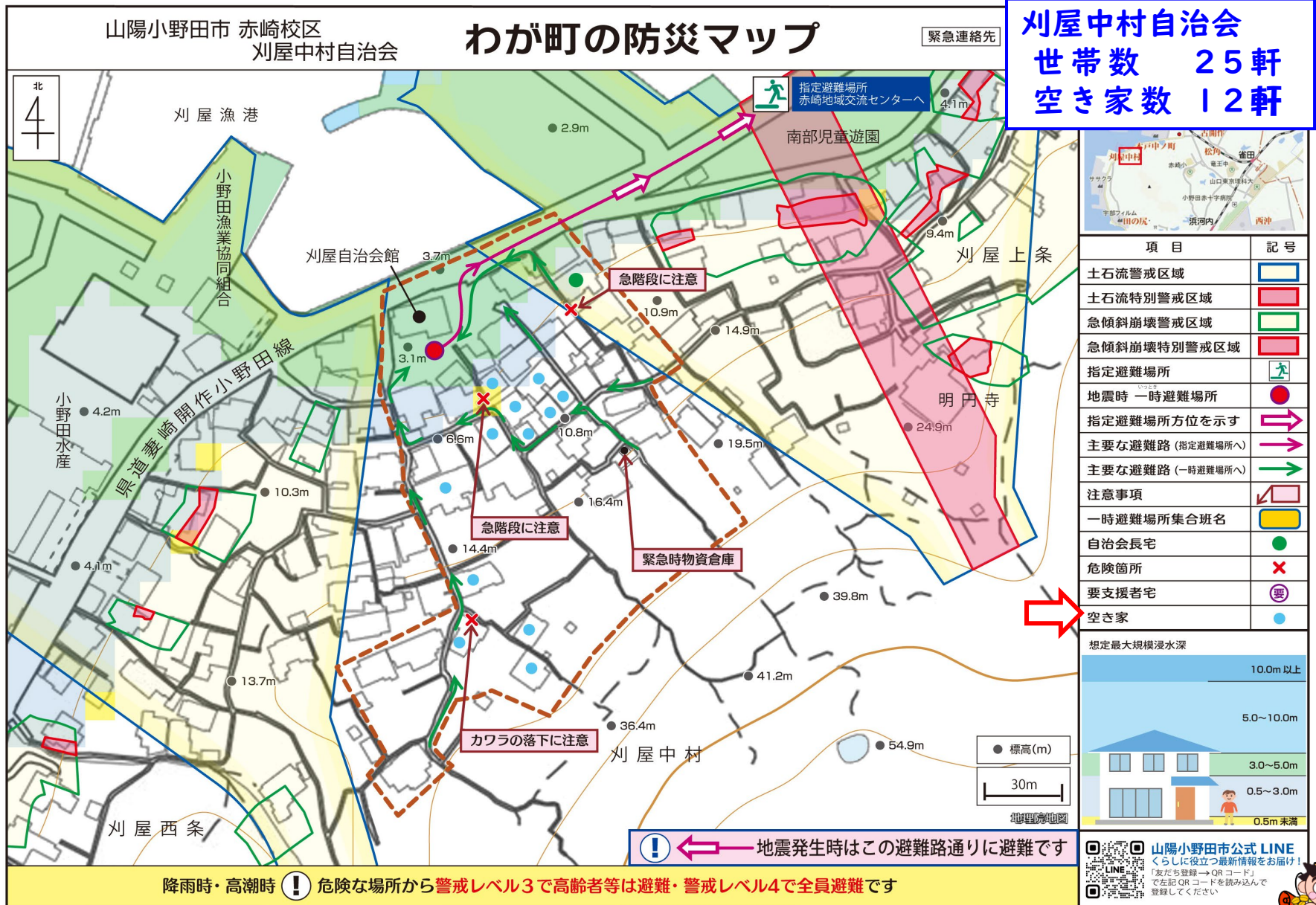
焼け残った「空き家」の異常状態



焼け残った「空き家」の異常状態



山陽小野田市防災士協会「空き家」対策として



まとめ

～ 今回の佐賀関大火災で教えられたこと～

1. 「空き家」対策

佐賀関地区は古い漁村で築数十年の家屋が密集した地域。更に、これらの家屋は持ち主不在の「空き家」が多く、「空き家」は管理不足のため、今回の火災時に、「空き家」が火災延焼に加勢しました。

今回のような大火災を防止するには「空き家」対策が必要です。「空き家」対策として「著しく状態の悪い空き家」については、早急に撤去を行うことが望ましく、更に、通電火災を防止するため、電源を遮断(外す)しておくことが必要です。

2. 「雨戸」対策

今回の大火災においては、雨戸の有無により明暗を分けた民家がありました。雨戸は「台風時」等の強風対策として取り付けてありますが、今回のように火災時にも家を守ってくれていました。「雨戸」について今一度考えて見ましょう。

3. 「避難訓練」の重要性

災害時はまず「生きること」「生き延びること」が一番です。

佐賀関地区では1年1回「避難訓練」を実施しています。

要支援者全員無事で避難ができたのは、田中地区で毎月実施している「声掛け訓練」「プチ避難訓練」のおかげでした。

避難訓練は1年一回以上実施して、いざ鎌倉時に、「生きること」そして「生き延びること」を身をもって、しっかり覚えましょう。



「明日は、我が身」

あつかれさまでした
ある日突然被害者に!

おわり



佐賀関大火 現地調査状況

👂 1回目現地調査	令和7年12月15日・藤井防災士と合同調査	47
👂 2回目現地調査	令和8年1月5日・現地渡辺氏の案内で調査実施	67
👂 3回目現地調査	令和8年2月17日・藤井防災士・渡辺氏の案内で調査実施	56
👂 4回目現地調査	令和8年3月5日・現地・渡辺氏の案内で調査実施	52
👂 5回目現地調査	令和8年3月26日・大分消防本部にて説明を受け 渡辺氏と午後現地調査実施	53

※大分市消防本部への質問事項(事前に送付)

○ 被災状況について質問

- ① 建物の被害状況
- ② 時間毎の気象と被害状況（風向等）
- ③ 人的被害が1名、全員（要支援者等）無事に避難が出来た理由
- ④ 市消防隊の活動状況と住民の避難状況
- ⑤ 延焼区域と飛び火で延焼した地区の間に、延焼を免れた地区がありますが、免れた事象について
- ⑥ 各家庭の燃料は都市ガス、LPGいずれですか
- ⑦ LPGの場合、LPGボンベの災害時の被災状況について
- ⑧ 空き家が多いですが、空き家の災害時の処置等対応について 以上

👂 6回目現地調査	令和8年5月5日・現地・渡辺氏の案内で調査実施	76
👂 7回目現地調査	令和8年5月25日・焼け残り家屋の調査実施	88
👂 8回目現地調査	令和8年6月10日・田中連合区復興事務局の調査	28

(写真撮影枚数 467)

